

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成25年11月12日

【四半期会計期間】 第138期第2四半期（自 平成25年7月1日 至 平成25年9月30日）

【会社名】 株式会社ブルボン

【英訳名】 BOURBON CORPORATION

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 吉田 康

【本店の所在の場所】 新潟県柏崎市松波四丁目2番14号

【電話番号】 0257(23)2333番

【事務連絡者氏名】 常務取締役 財務管理部長 山崎 幸治

【最寄りの連絡場所】 新潟県柏崎市松波四丁目2番14号

【電話番号】 0257(23)2333番

【事務連絡者氏名】 常務取締役 財務管理部長 山崎 幸治

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第137期 第2四半期 連結累計期間	第138期 第2四半期 連結累計期間	第137期
会計期間	自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日	自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日	自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日
売上高(百万円)	46,640	47,523	102,419
経常利益(百万円)	149	298	2,644
四半期(当期)純利益又は 四半期純損失()(百万円)	85	166	498
四半期包括利益又は包括利益(百万円)	152	84	955
純資産額(百万円)	33,156	34,377	34,105
総資産額(百万円)	61,388	61,202	65,134
1株当たり四半期(当期)純利益金額又は 1株当たり四半期純損失金額()(円)	3.58	6.92	20.79
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期) 純利益金額(円)			
自己資本比率(%)	54.0	56.2	52.4
営業活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	1,060	32	5,679
投資活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	1,513	523	2,565
財務活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	515	226	1,164
現金及び現金同等物の四半期末(期末) 残高(百万円)	8,256	10,474	11,220

回次	第137期 第2四半期 連結会計期間	第138期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成24年7月1日 至 平成24年9月30日	自 平成25年7月1日 至 平成25年9月30日
1株当たり四半期純損失金額()(円)	18.91	21.55

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、第137期第2四半期連結累計期間は、1株当たり四半期純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため、第138期第2四半期連結累計期間及び第137期は、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、デフレ状態からの脱却や経済成長を目指した経済政策・金融政策等により景況感に改善の動きが見られたものの、円安による原材料・燃料価格の上昇や海外景気の下振れ懸念など、依然として先行き不透明感が払拭されない状況が続きました。

高額商品を中心として一部に消費回復の兆しが見られましたが、菓子・飲料・食品業界は、所得環境の改善の遅れや消費税の増税が予定されていることなどから、消費者の価格重視の購買姿勢が継続し競争激化の状況のまま推移いたしました。

そのような中、当社グループは、食品製造企業として安全・安心・安定および健康を基とした品質保証第一主義に徹し、実質価値の高い商品と消費者ニーズにお応えしたサービスの提供など、顧客満足度の向上に向けた活動を推進してまいりました。国内の市場規模に拡大が見られない中、具体的な活動として、お客様のライフスタイルや価値観の変化による新たなニーズなどに機敏かつ柔軟に対応するとともに、多様な需要に対応したきめ細かいフォロー活動や需要を喚起する積極的な企画提案型の営業活動、品揃えの強化や販売促進企画の実施により、変化する市場や激化する業界競争への対応に努めてまいりました。

その結果、新しい味を展開したカップスナック商品や板チョコレート商品、野菜感を高めたスナック商品などに支持をいただきました。また、チョコレート品目、スナック品目、キャンデー品目などが伸張するとともにビスケット品目が堅調に推移したことなどにより、売上高は前年同期を若干上回りました。

利益面では、引き続きコスト削減や生産性の向上、経費の効果的使用などに努めたものの、原材料価格の上昇や競争激化に伴う販売促進費の増加などにより、営業利益は大幅に下回りました。また、為替の影響などにより経常利益、四半期純利益は前年同期を大きく上回りました。

営業品目別の概況

菓子の合計売上高は44,943百万円（対前年同期比102.2%）となりました。

ビスケット品目は、エリーゼシリーズが好調に推移したウエハース商品群が伸張するとともに、ファミリーサイズ商品やチョコあ〜んぱん商品群に好評をいただいた半生商品群が堅調に推移しました。ビスケット・クッキー商品群は、バラエティー豊かなミックス商品やロングセラーの袋ビスケット商品などに支持をいただきましたが伸び悩み、品目全体では前年同期並みとなりました。

豆菓物品目は、ワサビで仕上げた夏のおつまみ商品の発売やリニューアルした味ごのみ商品群などが伸張り前年同期を上回りました。

キャンデー品目は、フェットチーネグミシリーズの更なる展開を行うとともに、発汗で失われた塩分・ミネラルを補給できる塩飴などが好評をいただき前年同期を上回りました。

デザート品目は、品揃えを充実した凍らせてもなめらかな食感のフルじゅらシリーズや「フルーツジェラート」を新たに発売したギフト商品群が好調に推移したものの、既存品のカップデザートが伸び悩み前年同期を下回りました。

米菓品目は、素朴なサラダ味の一般米菓商品群が伸張するとともに、玉葱をたっぷり使い素材の味がしっかり楽しめる揚げ餅の発売や、焦がしチーズせんシリーズに新味の展開を図ったものの、加工米菓商品群が伸び悩み前年同期を下回りました。

スナック品目は、先期末の新製品「プチチョコル」によりプチシリーズが好調に推移するとともに、野菜感をアップしたベジポテトシリーズが伸張しました。また、珍味商品群は、濃厚な味わいに仕上げたソースカツを発売しました。品目全体では前年同期を大きく上回りました。

チョコレート品目は、フルーツグラノーラとホワイトチョコレートを組み合わせたパーティブチョコ「フルノーラ」、香ばしいきなこを使用した「アルフォートミニチョコレートきなこ」、キャラメル味のチョコレートとポテトスナックを組み合わせた「じゃがチョコキャラメル味」などを発売しました。リニューアルしたチョコスナック商品群、板チョコレート商品群も伸張したことから、前年同期を上回りました。

チューインガム品目は、デジタルライフをサポートする機能性ガム、ルテインPCガムシリーズを発売し注目をいただいたものの、既存品の低迷により前年同期を大きく下回りました。

飲料・食品・その他の合計売上高は2,579百万円（対前年同期比96.4%）となりました。

飲料品目は、軽い飲み口のブレンド茶「すっきり仕立てのさら茶」を500mlサイズに規格変更するとともに、リニューアルしたPETボトル入りのアイスココアやココナッツミルクなどが好評をいただきましたが、ミネラルウォーター商品群が競争激化により落ち込み、全体では前年同期を下回りました。

食品品目は、粉末ココア商品のミルクココアやしょうがココアに支持をいただくとともに、T-POINTキャンペーンの実施に加え、コラーゲン配合の新製品を発売した粒ジュレ0kcalシリーズが好調に推移しました。また、機能性食品については、栄養調整食品スローバーシリーズに新味を加え品揃えの充実を図るとともに、ビスケットの特定保健用食品「充実センイココアビスケット」、目の健康に関わる成分を配合した機能性飲料「ルテインPC125ml」を発売し伸張しました。品目全体では既存品の保存缶商品群が低迷し前年同期を下回りました。

その他品目では、通信販売事業は、催事商品や企画商品への取り組みとお客様の目線でのサービス改善を実施し、顧客の拡大などに取り組みました。自動販売機事業は、多様な商品を総合的に取り扱うプチモールの展開推進と効率性の向上に取り組み、設置台数の増加に伴い伸張しました。また、酒類販売事業は、期間限定醸造ビールの発売や受託生産の増加などにより前年同期を上回りました。

以上の営業活動により業績の向上に努めてまいりました結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は47,523百万円（対前年同期比101.9%）、営業利益は15百万円（対前年同期比7.6%）、経常利益は298百万円（対前年同期比200.0%）、四半期純利益は166百万円（前年同期 四半期純損失85百万円）となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

営業活動によるキャッシュ・フローは32百万円の支出（前年同期1,060百万円の収入）となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益464百万円と減価償却費1,667百万円等があったことと、仕入債務の減少2,278百万円等があったことによるものです。

投資活動によるキャッシュ・フローは523百万円の支出（前年同期1,513百万円の支出、対前年同期比34.6%）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出1,414百万円があったことと、投資有価証券の売却による収入495百万円と定期預金の払戻による収入500百万円があったことによるものです。

財務活動によるキャッシュ・フローは226百万円の支出（前年同期515百万円の支出、対前年同期比44.0%）となりました。これは主に、借入金及びリース債務の返済による支出413百万円と配当金の支払155百万円があったことと、自己株式の処分による収入344百万円があったことによるものです。

以上の結果、当第2四半期連結会計期間末の現金及び現金同等物の残高は、前第2四半期連結会計期間末に比べ2,217百万円増加し、10,474百万円となりました。また、前連結会計年度末に比べ746百万円の減少となりました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、471百万円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	80,000,000
計	80,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在 発行数(株) (平成25年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成25年11月12日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	27,700,000	27,700,000	東京証券取引所市場第二部	単元株式数 1,000株
計	27,700,000	27,700,000		

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金 増減額 (百万円)	資本金 残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成25年7月1日～ 平成25年9月30日	-	27,700,000	-	1,036	-	52

(6)【大株主の状況】

平成25年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数の 割合(%)
公益財団法人ブルボン 吉田記念財団	柏崎市諏訪町10番17号	2,612	9.43
吉田興産株式会社	柏崎市駅前二丁目3番51号	2,000	7.22
ブルボン柏湧共栄会	柏崎市松波四丁目2番14号	1,614	5.83
吉田 康	柏崎市	1,169	4.22
吉田 和代	柏崎市	1,167	4.22
株式会社第四銀行	新潟市中央区東堀前通七番町1071番地1	1,139	4.11
株式会社北越銀行	長岡市大手通二丁目2番地14	1,131	4.09
北日本興産株式会社	柏崎市駅前二丁目3番51号	1,055	3.81
吉田 暁弘	柏崎市	772	2.79
大森 幸代	東京都目黒区	765	2.76
計		13,429	48.48

(注) 1. 上記のほか、自己株式が3,432千株あります。

2. 北日本興産株式会社が所有している株式については、会社法施行規則第67条の規定により議決権の行使が制限されています。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成25年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数 (個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 3,432,000		
	(相互保有株式) 普通株式 1,055,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 23,125,000	23,125	
単元未満株式	普通株式 88,000		1単元(1,000株)未満の株式
発行済株式総数	27,700,000		
総株主の議決権		23,125	

【自己株式等】

平成25年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
株式会社ブルボン	柏崎市松波四丁目2番14号	3,432,000		3,432,000	12.39
北日本興産株式会社	柏崎市駅前二丁目3番51号	1,055,000		1,055,000	3.81
計		4,487,000		4,487,000	16.20

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(平成25年7月1日から平成25年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成25年4月1日から平成25年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、太陽A S G有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	11,589	10,338
受取手形及び売掛金	13,229	9,302
有価証券	131	135
商品及び製品	3,239	3,772
仕掛品	447	495
原材料及び貯蔵品	2,850	2,839
その他	1,561	1,496
貸倒引当金	84	45
流動資産合計	32,965	28,335
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	7,621	7,769
機械装置及び運搬具(純額)	8,318	8,282
その他(純額)	7,723	8,464
有形固定資産合計	23,663	24,515
無形固定資産		
のれん	1,891	1,834
その他	575	567
無形固定資産合計	2,467	2,402
投資その他の資産		
その他	6,056	5,967
貸倒引当金	18	18
投資その他の資産合計	6,037	5,948
固定資産合計	32,168	32,866
資産合計	65,134	61,202

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	10,169	7,895
短期借入金	1,999	1,949
未払法人税等	1,100	373
賞与引当金	978	1,103
返品引当金	76	84
その他	8,666	7,397
流動負債合計	22,990	18,804
固定負債		
長期借入金	840	687
退職給付引当金	5,692	5,804
役員退職慰労引当金	172	181
資産除去債務	8	8
負ののれん	28	27
その他	1,295	1,309
固定負債合計	8,037	8,019
負債合計	31,028	26,824
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,036	1,036
資本剰余金	7,326	7,628
利益剰余金	26,275	26,285
自己株式	575	534
株主資本合計	34,063	34,416
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	288	386
為替換算調整勘定	246	426
その他の包括利益累計額合計	42	39
純資産合計	34,105	34,377
負債純資産合計	65,134	61,202

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】
【四半期連結損益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
売上高	46,640	47,523
売上原価	27,657	28,067
売上総利益	18,983	19,456
販売費及び一般管理費	18,774	19,440
営業利益	209	15
営業外収益		
受取利息	8	7
受取配当金	39	42
負ののれん償却額	0	0
為替差益	-	229
その他	44	61
営業外収益合計	93	341
営業外費用		
支払利息	37	29
減価償却費	18	18
為替差損	91	-
その他	6	10
営業外費用合計	153	58
経常利益	149	298
特別利益		
固定資産売却益	0	-
投資有価証券売却益	1	199
特別利益合計	1	199
特別損失		
固定資産処分損	32	5
減損損失	14	6
投資有価証券評価損	1	21
その他	-	0
特別損失合計	48	33
税金等調整前四半期純利益	103	464
法人税、住民税及び事業税	259	348
法人税等調整額	70	50
法人税等合計	188	298
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失()	85	166
四半期純利益又は四半期純損失()	85	166

【四半期連結包括利益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失()	85	166
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	78	97
為替換算調整勘定	11	179
その他の包括利益合計	66	81
四半期包括利益	152	84
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	152	84
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	103	464
減価償却費	1,832	1,667
のれん償却額	57	57
受取利息及び受取配当金	48	49
負ののれん償却額	0	0
支払利息	37	29
為替差損益(は益)	103	179
投資有価証券売却損益(は益)	1	199
固定資産処分損益(は益)	32	5
減損損失	14	6
投資有価証券評価損益(は益)	1	21
売上債権の増減額(は増加)	4,359	3,947
たな卸資産の増減額(は増加)	1,692	555
仕入債務の増減額(は減少)	1,920	2,278
賞与引当金の増減額(は減少)	109	124
その他	1,140	2,048
小計	1,845	1,012
利息及び配当金の受取額	48	50
利息の支払額	37	29
法人税等の支払額	795	1,065
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,060	32
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	1,496	1,414
有形固定資産の売却による収入	6	9
投資有価証券の取得による支出	5	107
投資有価証券の売却による収入	11	495
定期預金の払戻による収入	-	500
その他	28	6
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,513	523
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	20	50
長期借入金の返済による支出	152	152
リース債務の返済による支出	186	211
配当金の支払額	156	155
自己株式の処分による収入	-	344
その他	0	1
財務活動によるキャッシュ・フロー	515	226
現金及び現金同等物に係る換算差額	9	35
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	977	746
現金及び現金同等物の期首残高	9,234	11,220
現金及び現金同等物の四半期末残高	8,256	10,474

【注記事項】

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
販売促進費	10,962百万円	11,379百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
現金及び預金勘定	8,649百万円	10,338百万円
有価証券勘定	107	135
預入期間が3か月を超える定期預金	500	
現金及び現金同等物	8,256	10,474

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年9月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月28日 定時株主総会	普通株式	155百万円	6円50銭	平成24年3月31日	平成24年6月29日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年10月26日 取締役会	普通株式	155百万円	6円50銭	平成24年9月30日	平成24年12月7日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年9月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月27日 定時株主総会	普通株式	155百万円	6円50銭	平成25年3月31日	平成25年6月28日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年10月29日 取締役会	普通株式	157百万円	6円50銭	平成25年9月30日	平成25年12月9日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社グループの事業は、食品製造企業として同一セグメントに属する、ビスケット類、米菓類等の菓子及び飲料食品等の食料品の製造・販売並びにこれらの付随業務であり、単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額又は 1株当たり四半期純損失金額()	3円58銭	6円92銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額又は 四半期純損失金額()(百万円)	85	166
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る四半期純利益金額又は 四半期純損失金額()(百万円)	85	166
普通株式の期中平均株式数(千株)	23,991	24,021

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、前第2四半期連結累計期間は、1株当たり四半期純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため、当第2四半期連結累計期間は、潜在株式が存在しないため記載していません。

2【その他】

平成25年10月29日開催の取締役会において、第138期の中間配当を行うことを決議いたしました。

中間配当金総額 157百万円

1株当たりの金額 6円50銭

支払請求の効力発生日及び支払開始日 平成25年12月9日

(注) 平成25年9月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行います。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年11月8日

株式会社ブルボン
取締役会御中

太陽A S G有限責任監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 大木 智博 印
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 久塚 清憲 印
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ブルボンの平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成25年7月1日から平成25年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ブルボン及び連結子会社の平成25年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはX B R Lデータ自体は含まれておりません。